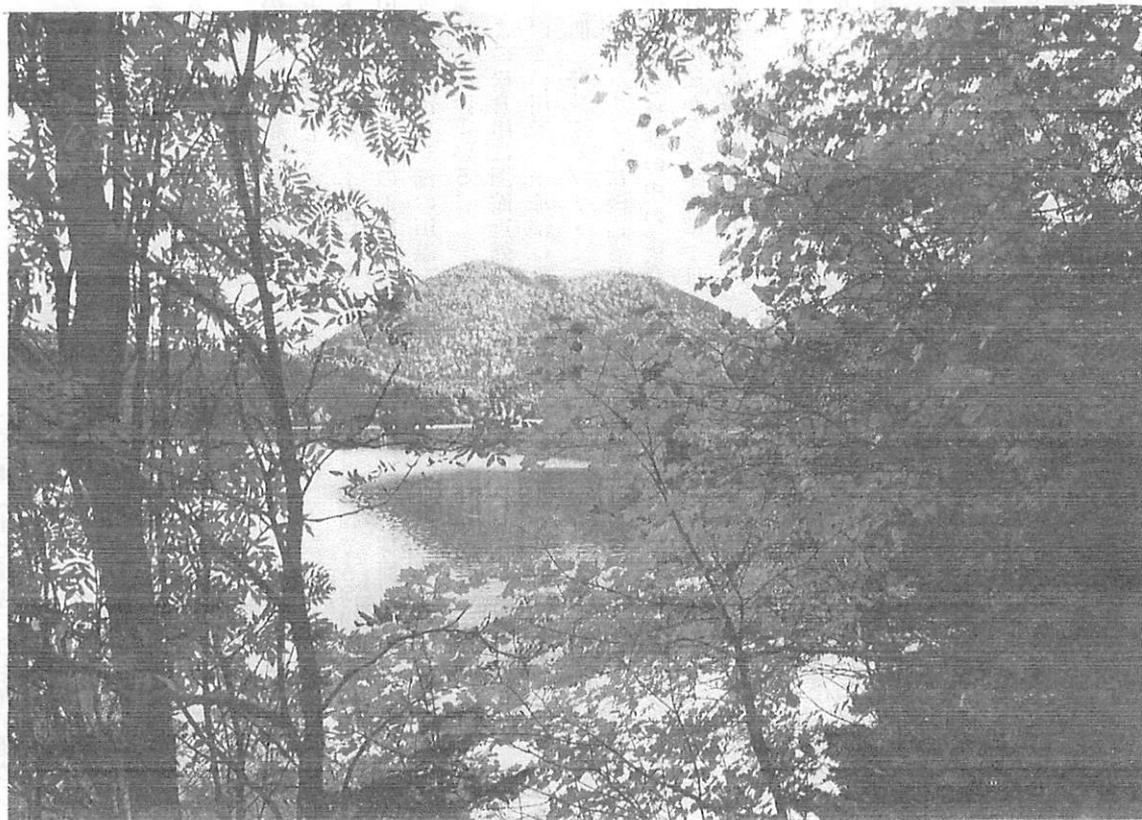


# 北の自然

No. 58

北海道自然保護連合

1998.1.18



然別湖畔より天望山(唇山)を望む 1997.9 撮影 及川 裕

松倉ダム問題の今

…宗像 和彦

大雪山国立公園のオーバーユースと「うんこ」問題

…小山 健二

観光化進む富山の大観模林道

…寺島 一男

札幌の「ナシヨナルトラス  
ト運動」

…笹田 浩司

札幌市真駒内ゴルフ練習場  
問題を通じて

…湯浅 博夫

サケに託す「石狩川再生」

…関口 隆嗣

# 松倉ダム問題の今

北海道自然保護協会  
宗 像 和 彦

## 松倉川にダム計画

九十二年北海道と函館市が松倉水系の治水と給水量確保を図るとする、多目的ダムの計画が姿を表した。松倉川は全長約二十四Km、函館市の北にある横津岳・袴腰岳山系を源とし、南下して函館市東部を流れ、下流部で畑地や市街地を流れる鮫川、湯の川、湯の沢川など幾つかの支川を合流させ湯の川温泉街で津軽海峡に注いでいる。

この松倉川は函館近郊では唯一ダムのない川で、上流部は亀田山脈の山肌が発達するブナ・ミズナラやイタヤ・シナノキに優占される道南を代表する林地の中の渓谷清流であり、中流からの平野部では、河口から数Kmの市街地を離れるとヤマハシノキ、ヤチタモ、多種のヤナギなどからなる河畔林やヨシの叢の発達もみられるなど、自然河川の環境や様相をとどめている河川である。

当然この河川周辺での生物相は豊かで、北海道自然保護協会、松倉川を考える会、日本野鳥の会函館支部などの近年の調査では、維管束植物(シダ植物と種子植物)について、中流域から源流部にかけて六〇

〇余種(帰化種含)の生育が認められ、なかには「自然環境保全調査(環境庁)」、「わが国における保護上重要な植物種の現状(保護上重要な植物研究委員会種分科会)」、さらに今年公表された「レッドデーターリスト(RDB基礎資料:環境庁)」などで、保護上注目すべき種に該当するもの二十数種が含まれている。

また鳥類でも河口から源流部までの流域で、採餌、営巣、飛翔などで一〇〇余種が目され、なかにクマタカ、クマガラなど「レッドデーターブック」RDB、「種の保存法」などに該当する種も確認されている。魚類については、北大水産学部の後藤晃助教授によると、エゾイワナ、ハナカジカなど三十三種の生息が認められるという。

さらに、道による事前の環境アセスの結果でも、哺乳類、は虫類、両生類、昆虫類、底生動物、甲殻類、付着藻類、などで多数種の確認があり、それぞれに保護上注目すべき種を含んでいる。

この生物相の豊かさは、その地の自然環境の多様さと、そのなかでの均衡のとれた生物生態系が成立していることを示し、また日本での絶滅が危惧される種が数多く生息する事

実は、この流域が良質な「自然域」であり、高い自然度を保ちつつづけてきた地域であることの証しである。

この流域は、そこにある自然をもとめて訪れる人々が多く、川沿いの林道を辿り、季節ごとの草木との出会いを楽しむ人々、渓谷美に魅せられて訪れる人々、川遊びを楽しむ子ども達、そして釣人達、等々、多くの市民に深く親しまれている地域となっている。

ダム予定地は、河口から約十五Km上流の渓谷地であり、この地でのダム建設は、湛水域とその下流域に生ずる流水状況の変化、渓谷急斜面での管理道や作業道の整備作業と、付け替え林道開発作業などでの植生破壊、さらに、それらに因する生物生態系の攪乱など、河川と流域の様相を大きく変貌させるものであり、現代では希少といえる松倉川のもつ自然河川としての価値を、一挙に消失させることは必然である。

## 時のアセスの対象に

このダム計画について、その必要性に疑義や異論を抱く市民は多く、現在は「松倉川を考える会(以下考える会)」(会長・中尾繁北大水産学

部教授)がその窓口となり、松倉川のもつ自然は市民の財産である”として、それを破壊してまでの建設の必要性や緊急性はあるのか、ダム以外の方策は検討できないのか、の点で建設側の道や市に説明をもとめつけてきた。

しかし、折衝の過程で道と市が示す水害や給水量の資料と説明には、納得され得るものはなく、また別対策案の提示もなく、進展のない状況のなかで今年七月、道の「時のアクセス」の再評価事業となった。

ついで八月、建設省は新年度予算にかかわって、中止及び休止とするダム建設地を公表したが、松倉ダムも休止の対象となった。

これら国や道の情勢から、松倉ダム問題の表面での動きは、道の「時のアクセス」での再評価の結果まちの状態となっている。

## 市と道の市民説明会では

そのような中、道と市は時のアクセスの見直し作業の参考にするとして、松倉ダム計画に関わる「市民説明会」を企画、一般市民(不特定多数)を対象に十一月十日、十一日、十三日の三日間、会場を移し同一内

容で開催した。

その中で、道(土現)は松倉水系(本、支川)の治水対策として、河道拡幅、遊水地、分水路(各支川上流で本川に流路を)、放水路(河口上流で海に一部放流)、ダム、等の単独や組合わせによる七計画案をあげ、市は将来の水需要予測と給水量増への必要対策について、道の治水案と抱き合わせの形で提示した。

この開催にあたり、道の関係機関内で「七案の検討のなかで特定の一案を妥当とする」という表現について、急遽改変するというドタバタ作業があったと聞いている。

しかし説明会では、確かに道が特定の一案を妥当とする言はなかったが、事業費や市の給水増対策との関連から、どうみても消去法で一つの案、九十二年提示のダム建設内容と基本的には大差ないもの(ダム規模に僅かな縮小と放水路計画が入る)に収斂するとしか受け取りがたい内容であり、道政策室の「白紙の立場で選択肢を探るのがアクセス」(報道記事)の意は伝わってこなかった。また、松倉ダムが時のアクセスの対象となったのは、「円滑な推進に課題を抱える」ためであり、その課題の一つは市民とのコンセンサス対策

が十分でない点にあるという。

当初(九十二年)のダム計画について多くの市民がもった疑義は、前述の「松倉川のもつ自然の価値」を犠牲にしてまでの緊急性、必要性があるか、またダムによらない対策案はないのか、である。

とすれば、この説明会で提示の七案は、いずれも素案でたたき台である(土現)としても、当初と大差のないダム建設案の一つの案としてあげたからには、流域の自然環境調査結果を踏まえてのダム施業問題について、建設側としての見解を自ら言及してしかるべきであり、これに関する市民の様々な声を聞くことも、重点の一つとすべきと考える。

しかし三会場とおして、これらに関する道と市の自らの言及はなく、また質疑過程でも、質問や意見提示に時間的余裕がないこともあって、殆ど深められずに終了している。

いまひとつ、「時のアクセス」の審議過程にあるこの時期の開催意図はなにか、ダム問題の経緯を、身近な問題として見まもる函館市民にとっては、大きな関心事である。

当初のダム計画で、「考える会」などが求めてきた市民説明会の開催(未だなし)に応えたものか、また

は「時のアクセス」の作業過程にある、「対象事業所管部局の検討」段階で、評価項目「必要性・妥当性・優良性・効果・住民意識・代替性」などの現況診断を図るものなのか。

しかし、提示の七案は当初案の修正案ではなく、また今回の説明会は「時のアクセス」の審議検討過程での位置づけはない、とのことである。

この説明会が、当初計画(九十二年)で生じたダム問題の経緯を踏まえたものでないとすれば、その開催意図は何なのか、時のアクセスの参考とはどのような意なのか、等々、多くの疑問が残る。

開催趣旨の不徹底からと理解したが、お役所の「住民への説明会実施」の実績残しと、穿つ声も多かったことは事実である。

総じて、開催側の説明会結果の評価はどうあれ、参加者には多くの疑問を残した開催とその内容であった。

しかし開催者は、各会場での「ダム否定」の声が多く、且つ大きかったことは認めなければならぬ。

時のアクセスは、九十二年提示のダム計画事業の再評価である。例案とその意向打診はその後の作業である。

時のアクセスの精神を厳正に生かし、その運用にあたることを願う。

# 大雪山国立公園のオーバーユースと「うんこ」問題

北海道勤労者山岳連盟

小山健二

## 大雪山高原温泉へのマイカー規制

環境庁や上川町等は、今年九月十三日、十五日と二十日、二十一日に、混雑緩和と自然保護を目的に交通規制を行い、国道から温泉までの狭い町道十kmに有料シャトルバスを走らせました。

国立公園内の車両規制は、昭和四十九年に始めています。環境庁が「国立公園内における自動車利用適正化要綱」を作成し、尾瀬や上高地・知床等六地域をモデル地区に指定したことに始まります。知床を除く五地域で実施され、知床は平成五年に環境庁と北海道・斜里町が知床五湖地区自動車利用適正化対策連絡協議会を結成して規制案を発表したのですが、いまだに実施されていません。規制案は知床自然センターから九〇〇m奥に森林を伐採して駐車場を確保し、そこからは町営のシャトルバスを走らせる計画でした。自然保護目的の為に、森林伐採して自然破壊と言う本末転倒の計画に地元自然保護団体と北海道自然保護連合が反対したために計画が頓挫しているのです。道内でのマイカー規制が行われたのは高原温泉が初めてと

なりました。しかし、ここで大きな疑問が浮かんできます。四m幅の町道の混雑緩和を目的とするのであれば、なぜ温泉の駐車場に三〇〇台を駐車させて、それ以後の車両を規制しないのでしょうか。駐車場が空っぽというのはどうしても合点がいきません。

## 果たして自然保護目的のマイカー規制は自然を守ることになるのか

規制前の昨年までは、未舗装四m町道に駐車する車の列で十kmの道路が大停滞を引き起こしていました。この事自体で多くの行楽客や紅葉登山者は、入山を嫌って高原温泉行きを諦めていたのです。狭い道路が入山者を規制していたのです。こう考えると、町道脇の森林帯を、渋滞車の出す排気ガスの及ぼす影響と、渋滞が無くなる事で増加する行楽客や登山者が踏みつける高山植物の影響のどちらかが重大なのでしょうか。山上の高山植物はオーバーユースによる環境破壊で危機にさらされ、その回復力は森林帯と比較するまでもないでしょう。マイカー規制や道路の拡幅工事をしない事が、実は大雪山の高山植物にとっては生き延びる

一番良い方法と言えない事もないのです。大雪山のオーバーユースを未然に防止する観点を色々な方法の中から如何に選択するかが大切ですよ。

## ハイカーや登山者の排泄物「うんこ」と大雪山のトイレ問題

山での排泄はキジ打ちとかお花つみと言っていますが、ここであえて問題と言うだけの理由があります。夏の登山シーズン最盛期、相当以前から大雪山のテント場や山小屋周辺がうんこだらけ、と言われ続けておりました。しかし残念ながら、今日まで何ら改善されていない現実があるのです。登山そのものは個々人の遊び（ここで言う遊びは、遊び半分などと言われる遊びとは異なります）ですが、登山者が集団となり社会活動の一端を担う事からして登山文化といえるでしょう。今日の登山は第二次登山ブーム真っ最中です。第一次登山ブームは、昭和三十年代から四十年代の日本隊マナスル登頂以後で、現在は十数年前からの中高年者への爆発的なハイキング・登山のブームから成り立っています。多くのハイカーや登山者が大雪山の峰々を目指

して溢れんばかりに押しかけます。

そして、「うんこ」をします。十数年前から地元自治体や環境庁はほとんど無策でしたので、キャンプ地や山小屋周囲は「うんこ」だらけになっているのです。臨時的な処理対策であれ抜本的な対策であれ、いま真剣に解決案を実行に移さなければ、高山の自然環境が危ういのです。いや、手遅れなのかもしれません。登山はより自然な山岳環境の中で行われてこそ「登山」といえますが、登山者の排泄物で自然が損なわれたい、見た目にもガッカリしてしまいます。

勤労者山岳連盟は今年紅葉が始まった九月六日～七日、「山のゴミとうんこを考える」をテーマに大雪山四コースから二十名が清掃登山を行いました。北海道の勤労者山岳会は昭和五十六年から本格的な山岳の清掃活動を行い、その成果として今ではほとんどの登山道でゴミを見かける事が無くなっています。近郊の山から近郊外へと、昨年に次ぐ二度目の大雪山清掃活動でした。四コースの清掃の他に、白雲岳避難小屋のトイレ状況を調査しました。以下は参加者の意見と山小屋管理人のトイレ管理状況についての意見です。

### 〈参加者の意見〉

- ① 登山道脇にトイレ紙が多い。
- ② 女性のナプキンまで捨ててある。
- ③ 女性のトイレ紙が目立つ。
- ④ トムラウシ山南沼のキャンプ地周囲の岩影がうんこ場でひどい。
- ⑤ 大雪山は札幌近郊の山と同様、ゴミが少ないのでトイレ紙が目立つ。
- ⑥ 山のトイレの専門家は居ない。
- ⑦ 本州の山小屋ではトイレ内にトイレ紙を入れる袋が設置されている。

### ⑧ 勤労者山岳会の会員と他の登山



白雲岳頂上にて／大雪清掃登山札幌山一行

- 者のゴミに対する意識のギャップが大きい。「ゴミを捨てない」の大宣伝をすべし。
  - ⑨ タバコの吸殻が多い。
  - ⑩ ゴミのテイクインとテイクアウトを意識して行っている。
  - ⑪ 憧れの大雪山なのにトイレ紙が散乱していてガッカリした。
- ### 〈山小屋管理人の意見〉
- ① テント地（無料）のテント設置の人達も小屋前のトイレを使用してほしい。
  - ② 七月の登山最盛期には、小屋泊まり八十名、テント八十張。トイレ待ち三十分になった為、トイレ周囲でキジ打ちを認めた。その為黒ユリ群落が絶滅してスゲ類に変わってしまった。
  - ③ ゴミは小屋管理人がボックで高原温泉へ下ろしている。忠別小屋のゴミも同様。
  - ④ 大雪山国立公園ボランティア（パークボランティア）が登山道のゴミ拾いと高原温泉へのゴミ下ろしをしている。
  - ⑤ 小屋前の二連のトイレは浸透式、自然分解式。  
山小屋の「うんこ」処理対策が急がれているのが、山小屋管理人の意見から読み取る事ができます。トイレの排泄物は、地下浸透式で周囲の高山植物の植生に与える影響は深刻です。大腸菌汚染被害も心配です。余りにも深刻過ぎて、対策を講じる機会を逸していた様に思えます。ではどの様な対策が考えられるのでしょうか。ここでアメリカのヨセミテ国立公園の現状から解決策が一つ浮かび上がりました。ヨセミテ国立公園の高地に在るテント地や山小屋のトイレの便そうは、交換移動式になっていてヘリコプターによって山麓へ下ろされているのです。テント地が有料で入山制限などオーバーユース対策もしっかりと実行されています。なんだ大雪山国立公園でも直ぐにできるのでは、と思われるかもしれませんが、我国の地元自治体や環境庁の行う自然環境保全やオーバーユース対策を、高原温泉のマイカー規制や旭岳ロープウェイの実体から考えて、ほとんど絶望的ではないでしょうか。アメリカの国立公園に対する施策は、自然保護の考え方が、考えに終わらず実践されている事には驚きです。
- 大雪山のキャンプ地にトイレの設置と、トイレの交換移動式によるヘリコプター回収を一時も早く実現したいものです。

# 観光化進む富山の大規模林道

## —第5回全国集会に参加して

大雪と石狩川の自然を守る会

寺島 一 男

### 並みでない富山の林道

### 工事のための道路づくり

それにしても怖い林道だ。遙か下に谷底を覗くいまにも落ちていきそうな山腹を、くねくねと蛇のように曲がって延びている。先が見えないうえ、車線幅はどうみても一車両分しかない。ところどころに申し訳みために退避場はあるものの、そこですれ違うのがやつとの感じだ。

車の窓を擦らんばかりに接近してくる屏風のような崖が続いたかと思うと、今度は短いトンネルが頻繁に出てくる。トンネルとは言っても、その中はごつごつと大きな岩角がむき出しになっていて、素掘りの穴そのものだ。ところどころで天井から水が染み出していたり、中で道が鋭く屈曲したりしている。

怖いのは、その道をときどきダンブカーが走り抜ける。この道の何箇所かで、道路の拡幅やトンネル工事が行われているからだ。道内にも、日高山脈など急峻な林道はいくつかあるが、ここはその比でない。よくぞこんな所に道路をつくったものだ、という感じなのだ。

この林道、富山県の龜谷と有峰湖を結ぶ「有峰林道小見線」である。富山県が管理する全国でも珍しい有料の林道だ。使用料金は普通車で一七〇〇円もかかる。

有峰湖は北アルプス・薬師岳の山麓に位置する日本有数の人工湖だ。発電を主目的に昭和三十六年完成した有峰ダムにより誕生した。はじめはダムの工事と管理のためにつくられた道路だが、いま大規模林道に交身するための大工事が始まっている。

急峻絶壁の連続する、しかも入り組む山腹を一つ一つ縫うように進む道路だけに、その改良工事は想像を超える。崩壊し易い地形と地質、名うての豪雪地帯など、有利な条件は何一つない。長期間の工事と膨大な事業費、大規模な自然破壊が目に見えている。

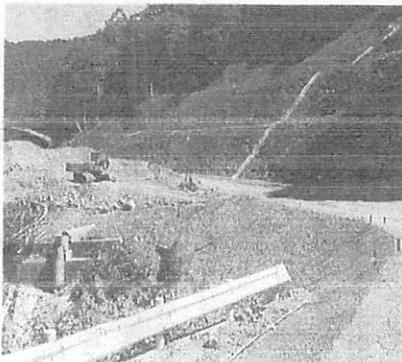
有峰湖にはすでに三方向からの連絡路があり、この道路の途中には人家もなく、大規模林道として広げる理由はどこにも見当たらない、仮に大規模林道にするにしても、この道路の選択は最悪という。好んで経費

と期日と維持管理の手間がかかる道路をつくっているのだ。まさに、工事のための道路づくりなのである。

### 消えた秘境

秋も迫った八月二十二日、富山市で三日間の日程で大規模林道問題の全国集会が開かれた。五回目の集会である。第四回集会は、昨年七月旭川で開かれた。全国各地から三〇〇名を超える人たちが集まり、私たちを感激させた。その思いを返そうと、旭川から六人で参加したのである。

大会は初日、富山県内の大規模林道「高山・大山線」の現地視察。二日目、北アルプスの「立山黒部アルペンルート」の現地視察。夜、全国交流集会。三日目、市内の会場（電



有峰湖周辺で進んでいる林道開発

気ビル)で基調講演とパネルディスカッションが開催された。

久しぶりの北アルプス行きとあって、一日くらは全員で登山をした。一日目に奥大日岳に登った。快晴に恵まれてその醍醐味をたっぷり味わうことはできたものの、富山の大規模林道もぜひ見たかった。その意を察して、全国ネット事務局長の加藤彰紀さんがわざわざ乗用車を繰り出して、有峰湖一帯の大規模林道を案内してくれた。

有峰湖一帯は、この湖ができるまで富山県最後の秘境と呼ばれていた。急峻な川として知られる常願寺川の支流和田川の源流部に位置し、北アルプス山麓の山々に囲まれた深い谷間には、いまは湖底に沈んだ平家の落人部落以外なく、豊かな自然とその神秘性によって永い間名実共に秘境の名を欲しままにしていた。北陸電力の管理するダムができてからも、有峰湖に通じる道は限られていて、まだ秘境の名残を留めていたという。だが、県が観光政策を強め有峰湖一帯を県の公園に指定するなど、周辺整備を押し進めるに従ってその面影は薄らいだ。そして決定的に秘境のベールをはぎ取ったのが、大規模林道の建設である。



富山集会のパネラー

が報告された。一つは、立山連峰を貫く山岳観光ルート「立山黒部アルペンルート」による生態系への被害だ。

アルペンルートは、標高約一〇〇〇mの美女平と標高約二五〇〇mの室堂を結ぶ雲上の自動車道路だ。一九七一年には長野県側の黒部ダムともつながって全線開通した。

この年を境に立山連峰の室堂には、それまでの五倍を超える、年間一〇〇万人規模の観光客が押し掛けるようになった。多い年には一三〇万人にもなり、車両はマイカー規制の行われているいまも、バスやトラックだけで年間数万台におよんでいる。

### 重要な北海道の役割

このあたり一帯の自然破壊について、もう一つの問題は、集会本題の大規模林道だ。今年に入って「平取—えりも線」(北海道)、「真室川—葉山線」(山形)、「飯豊—檜枝岐線」(山形・福島)の三路線が国会で取り上げられ、この中の三区間が長年の運動の成果によって休止となった。

### 被害深刻なアルペンルート

二年前、大規模林道「高山・大山線」が完成し、有峰湖は岐阜県側と繋がった。県境には飛越トンネルが掘られ、あたり一帯は「飛越高原」として観光整備が進行中だ。また同時に、湖岸を一周する形で「東岸線」(十一、九キロ)が湖岸から立山カルデラに向かって「有峰林道真川線」(十三、四キロ)がつけられていた。これらはいずれも大規模林道に衣替えされて整備されつつある。つまり有峰湖周辺の大規模林道は、明らかに観光道路目的なのである。



排ガスの影響が深刻なアルペンルート

しかし、大規模林道の全体計画は、行革や公共事業に対する厳しい批判の目をかき潜って、依然深刻な自然破壊をとまぬいながら進められている。

大会では、このような現状をどう打破していくのか、どのような取り

組みの強化が必要なのかが話し合われた。また、富山のように大規模林道の観光的利用が進む実態をはじめ、各地の新たな問題の所在や大きく前進した運動の成果も報告された。

東北を中心とする粘り強い反対運動によって、大規模林道に対する批判の声は、この数年來急速な高まりをみせている。しかし、全体としてみればまだ大きく国民を揺り動かすほどの声になっていない。

大規模林道の建設されている地域が偏在していること、人目につかない山奥で工事が進んでいること、何よりも「林道」の冠がついていて、一般の人には正体がなかなか見えにくい構造になっているなど、その原因はいろいろ考えられる。だが、大規模林道のもたらす膨大なムダづかい・環境破壊・将来のツケを考えると、より一層の奮起が必要である。その際、北海道の運動のあり方は極めて重要だ。二本もの路線を抱え、延長の面でも事業費の面でもその占める割合が他府県よりも大きいからである。まだまだ小さい北海道の声と取り組みを、今後いかに大きくするかが私たちに課せられている最大の課題のようだ。

# 札幌の 「ナショナルトラスト運動」

真駒内・芸術の森 緑の回廊基金

実行委員長 笹田浩司

## 子供のころの遊び場「桜山」

こがしこで切り刻まれ、又、切り刻まれようとしています。

## 「真駒内・芸術の森 緑の回廊基金」誕生の経緯

札幌市南区には真駒内保健休養林から芸術の森にかけて、一三三種の植物、ハイタカ、カワセミを含む四十七種の野鳥が確認されている豊かな森林が広がっています。そして通称「桜山」と呼ばれている、地下鉄真駒内駅の裏から西岡にかけては、私が子供の頃は虫取りの「秘密の場所」や「探検」の舞台となる楽しい、そしてちょっとおっかない冒険の地でした。地図もなく、分かれ道ではチョークで樹木の幹に印をつけながら山道を歩き回りました。ほの暗い木立の中を進み、透きとおった緑色のはっぱにミンミンゼミの影が映っているのを見つけてはドキドキし、樹液の多い木を見つけるとそこは親しい友達にしか教えない秘密の場所、行けば必ずミヤマクワガタやカナブン、カミキリムシのたぐいが群がっていました。駒岡方面には「底なし沼」が有りヤンマのヤゴを見つけて学校に持って行き授業中に羽化が始まって、先生は理科の先生だったので、皆でずっと見ていたこともありました。そして私が大人になっ

この「緑の回廊」の一部でゴルフ練習場の建設計画が昨年末に発覚しました。地域の町内会や市民団体が次々と建設反対の運動を繰り広げ陳情書や要望書を提出、反対署名も二万七千名あまりを集めました。

札幌市は始めは住民の要望を受け、自治体が森林を保全するために民有地を買い取るという異例の買い取り交渉を、ゴルフ練習場の建設を予定する業者と始めました。しかし、業者側の意思が固く交渉は決裂し、再三にわたる要望にもかかわらず札幌市は建築の許可を出してしまいました。

このような過程で行政の力に頼っているだけでは限界がありより多くの市民が積極的に緑の保存にかかわっていかねばならないとの認識が深まり、ナショナルトラスト「真駒内・芸術の森 緑の回廊基金」が誕生しました。

## ナショナルトラスト 運動について

私たちの「真駒内・芸術の森 緑の回廊基金」も、「トトロのふるさと基金」をモデルケースとしたナショナルトラスト運動です。

### 私たちが進めたいこと

ナショナルトラスト運動とは、大勢の市民が少しずつ寄付金を出し合いながら土地を買い取り自然や文化財を守って行く運動です。皆さんはピーターラビットをご存じだと思いません。そのピーターラビットのふるさとはいギリスの美しい湖沼地帯で、ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターも、その美しい湖沼地帯の土地を買い取りナショナルトラスト運動に積極的に参加していました。又、皆さんは「となりのトトロ」をご存じでしょうか。今、「もののけ姫」でも有名な宮崎 駿監督のアニメ作品のひとつです。このアニメの舞台は埼玉県と東京にまたがる狭山丘陵をモデルにつくられています。そして一九九〇年にこのトトロの住む狭山丘陵を守るために、長年狭山丘陵の保全に力を入れていたいくつかの自然や文化財の保護グループが一緒に狭山丘陵ナショナルトラスト「トトロのふるさと基金」が始まりこれまでに二カ所の雑木林を買い取るなど活発な自然保護活動を推進しています。

先ず多くの市民の方々の協力を得ながらたくさんの方々の寄付を集め森林を買い取りながら自然を保護して行くことが第一の目的です。そのために現在パンフレットの作成や「緑の回廊基金」をアピールするための絵がき集の作成を進めています。

第二に、この運動の存在を通して多くの人々が自然保護に対しての認識を深め、このような都市近郊の自然と人間との在り方を探りながら森を守り育てるためのいくつかのプロジェクトも進めて行きたいと思っています。

昨今、自然の森の中では激しい競争原理をこえて様々な生き物たちが互いに助け合い、分かち合いながら「共生」しているという多くの新しい知見があらかになり、テレビなどでも放映されるようになっていきました。人と自然との在り方を「市民」として地域から模索しながら世界とつながる活動を行って行きたいと思

つています。

是非、ご協力をお願いいたします。

事務局

札幌市南区真駒内

南町七丁目十五—十八 湯浅方

TEL/FAX

〇一一—五八四—五五〇—

郵便振替口座名

「真駒内・芸術の森緑の回廊基金」

番号

〇二七七〇—五—四二二—三七

一口 五〇〇円

## 士幌高原道路 問題の情勢

てこない。道庁政策室は窓を開いて道民に見える透明性をもつべきである。

●検討六項目といわれるが、経済効果などに傾斜して、自然の価値が矮小化されることを警戒したい。

●九月道議会二つの委員会が現地視察したものの、入口だけ見て奥へは入らず、推進派からのヒヤリングのみで反対派からはしない片手落ち。

●十月九日ナキウサギ裁判長が「来た甲斐がありました。裁判に生かしたい」とコメント。画期的山頂裁判実現。

●十月二十四日十勝講演会一八五名。佐藤謙氏が然別の不思議な自然、石城謙吉氏が公共事業開発と自然保護について語る。

●十一月四日トンネル坑口予定地鹿追側法面のナキウサギ調査で門崎允昭氏が食痕を確認し「採食地・行動圏」であるとコメント。

●十月旭川講演会九十名。松田まゆみ氏が新発見のマツダタカネオニグモ、市川守弘氏がナキウサギ裁判の意義を語る。また、同日十勝シンポジウム六十名。大橋道義、及川十勝協会長、士幌町民金田明彦氏が提言。

# 札幌市真駒内ゴルフ練習場問題を通じて —地域の環境問題から基本的人権へ—

真駒内川周辺の森と水を語る会

代表 湯 浅 博 夫

札幌市南区真駒内におきた緑が丘ゴルフセンター建設問題は、精進川河畔林問題に次ぐ行政処分庁である札幌市にとって重要な問題となつて

いる。  
昨年八月にこのゴルフ練習場開発計画が浮上し、その開発地を取り囲むように三つの地域連合町内会、地域住民、市民団体が森林の保全を求め立ち上がった。札幌市は開発予定地の樹林地は最高ランクのAの森林評価をし、緑地償制度によつて買い上げ保全すると札幌市議会環境消防委員会にて公言。署名数二八二〇署名。しかし、民有林における民間の開発の手は止められず、今年五月二十六日に開発許可が下ろされた。  
この開発地は国道支笏湖線に沿つて続く北から南への緑の回廊の真ん中にあたり、真駒内保健休養林と地続きの美しい森にほとんど接する位置にある。クマゲラ、オオルリ、シマエナガ、ハイタカなど五十一種の野鳥確認。マイヅルソウ、サイハイラン、エンレイソウ、イチヤクソウ、ササバギンランなどの群生地でもあり、ごく普通でありながら豊かな森が市街地に接している。

## 札幌市は表層知識の素人

何故、この問題が大きな問題となつてしまったのか。

一 地形上特種な事例であるにもかかわらず、札幌市は通常の平地と近い規定による扱いしかなかったこと。

二 雨水、特に沢水に対する知識があいまいであり、沢水の認識がないこと。工事中の防災指導をしていながら土砂流出の事故を引き起こしていること。

三 法の根底の主旨を理解せず、規定の表層的な文章にこだわり処理し、雨水取り入れ口の水の飲み込み量計算（水理計算）も当然初期段階に提出されるべき証拠が後で出され、つじつまを併せていること。

## 環境オンブズマン会議の必要性

現在、この問題は札幌市歴史始まつて以来始めて住民から審査請求され、札幌市開発審査会にて審査されている。学識経験者を審査委員とした第三者が入り、行政処分庁である

証言、というかたちで進んでいる。公の場で再議論し、明確にすることで法の解釈や新たな問題点が発覚してきている。しかし、審査委員は札幌市長の任命する人々であり、今回の審査委員には河川土木の専門家がいないまま河川土木の専門的技術基本について問うという状況が生じており、おのずと限界がある。札幌市歴史始まつて以来という事実をみても、住民からの不服申し立ての道があることがこの問題を通じてはつきりした。

素人である私達が法に目覚め、土木工学、河川土木工学に目覚め、様々な事を学ばなければここまでたどりつくことは出来なかつたと痛感している。環境オンブズマン会議というような学識経験、有識者によつて組織されたコンサルタント的なものとしてシンクタンク的な組織づくりが必要な時期に入っているように思う。正確な専門知識、法の知識を表層的な解釈にとどまらないよう行政とともに論議し、環境権を認識していかなければならない時期にきているのではないだろうか。

有志会員募集 真駒内川周辺の森と水を語る会 代表 湯浅博夫 ○一  
札幌市に対して陳述、弁明、質問、  
一五八四—五五〇一

# サケに託す「石狩川再生」

大雪と石狩川の自然を守る会

関 口 隆 嗣

神の魚サケを迎える儀式「カムイ  
チエップ ノミ」は去る九月二十八  
日市民と関係者多数参加のなか石狩  
川秋月橋右岸河畔（旭川市）で開催  
された。この催しは実行委員会（大  
雪と石狩の自然を守る会・チカッ  
プニアイヌ文化保存会・旭川アイヌ協  
議会等で構成）の手によるもので十  
回目を数えた。

アイヌの神事（カムイ ノミ）で  
始まるこの催事は、火の神、水の神、  
村の神、山の神などのイナウにお神  
酒を捧げて祈り感謝を表し、イナウ  
を石狩川の流れに投げこみサケの遡  
上を祈願して終わる。

サケの放流計画は旭川での水銀問  
題に一応の決着みたところから始ま  
るが、監視の目を失わず関心を如何  
に喚起するかという腐心の中から生  
まれたものだ。しかし種卵の入手は  
困難を極め、たびたびの要請、申請  
にもついに行政の門は開かれる事は  
なかった。（九十年から漸く時代の  
要請もあり社会教育の一環として  
提供されるようになり現在に至って  
いる）。そのような中、幕別町の「ふ  
るさと館」（博物館）が扱う町内の  
学校教育用の卵の一部が八十三年秋  
供与されることになり、九十四年春



'97.9 カムイチミケップノミ

再生、母なる石狩川の再生  
と言う壮大な願いを込めカ  
ムイの名を冠したのだ。  
十年一昔、十回目を迎え  
たカムイチエップノミは一  
つの節目の年であった。し  
かしサケ遡上そのものの条  
件はこの十年間何一つ変わ  
っていない。花園頭首工が  
撤去され、或は魚道が設置  
されサケの遡上が認められ  
た時こそ、正しく節目とし  
て相応しくはないだろう

目出たく初の放流へときつめた。  
以来十四回（年）続けられているが  
卵の入手までの八年、良くぞ持ちこ  
たえたものと当時の担当者たちに「あ  
つぱれ」と言うほかなくその粘り強  
さに感嘆と驚異の念を禁じ得ない。  
古来アイヌはその年最初に捕られ  
たサケを神に捧げ、この年もまた変  
わらぬ大自然の恵みに感謝を表しサ  
ケ漁の無事を祈ってカムイノミを行  
ってきた。今では札幌や千歳で行わ  
れている「アシリ チエップ ノミ」  
がその再現であろう。

旭川では新しいサケ「アシリチエ  
ップ」に対し、サケを神の魚とし  
「カムイチエップ」と名づけ、自然  
の恵みに感謝するのみならず、川  
か。 神々へ捧げるとは、自然への感謝  
とはいったい何を指して言うのだろ  
う。今の私たちにその本当の意味が  
分かっているであろうか。  
飼育し、放流し、いまだ姿さえ見  
えぬサケを迎える。人から人へ引き  
継がれて来たこの行為に今少しの光  
明が見える。継続は力なりと言われ  
ながら久しく空しくさえあったこの  
言葉に少しく現実味が感じられはじ  
めたのだ。  
捧げるとは、感謝を表すとは、継  
続される行為にこそ見出せるものな  
のかも知れない。「石狩川にこそサ  
ケを！」の合言葉の意味と共に。

〈案内〉『高山植物盗掘防止のためのシンポジウム』

日時 1998年3月15日(日) 10時～15時  
場所 北海道大学学術交流会館

北の自然 No. 58

98年1月18日発行

発行 北海道自然保護団体連合

事務局 札幌市南区川沿十条三十二二二

小山健二方

TEL〇一一一五七二二二〇六九

発行人 稲田 孝治

編集 佐藤与志松

水尾 君尾

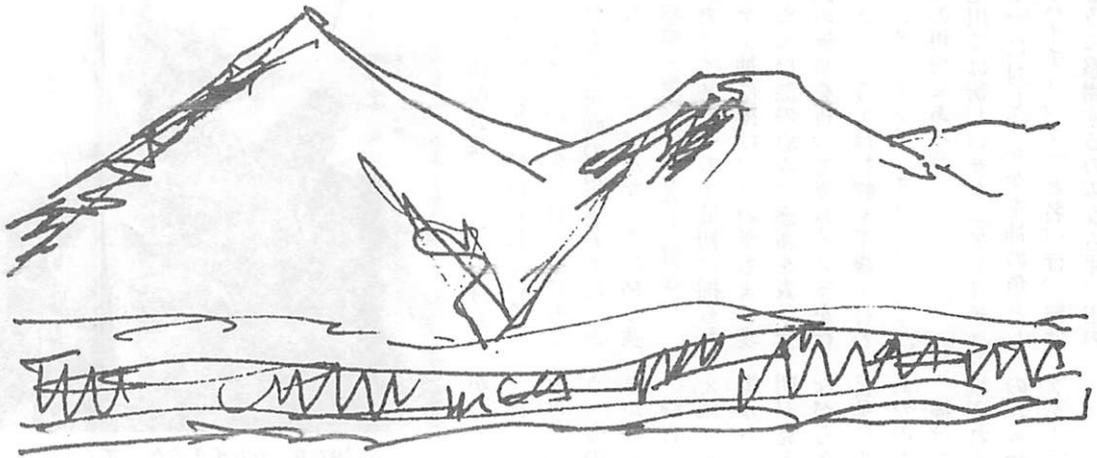
印刷 林オートプリント・帯広

賛助会費 年間三、〇〇〇円

郵便振替 〇二七一〇一五―四〇七一

＝ 編集後記 ＝

- ◆前号に間をおかず発行するよう心がけたものの新年に持ち越してしまいました。
- ◆ページの都合で次回にお願いします。  
「洞爺鹿問題」「士幌高原道その五」
- ◆盗掘問題—どうして高山植物が巷の店頭に並ぶのでしょうか。  
(記佐藤)



秀岳社

営業時間/A.M.10:00～P.M.7:00

定休日/毎週月曜日

札幌本店 札幌市北区北12条西3丁目 ☎(011) 726-1235

旭川店 旭川市忠和5条4丁目 ☎(0166) 61-1930

(専用駐車場完備)